

HSBCのブロックチェーン技術への戦略的取り組み

HSBCは2020年以降、グローバル金融機関として最も積極的にブロックチェーン技術を実装している銀行の一つとなっている。** [Hsbc +2 ↗](#) 8.1兆ドル以上のFX取引処理、135億ドルの資産デジタル化、世界最大規模のデジタル債券発行** [Baton Systems ↗](#) [OSTTRA ↗](#) など、概念実証を超えた本格的な商用運用を実現している。 [Ledger Insights +5 ↗](#) 同行は単なる実験ではなく、貿易金融、デジタル資産、CBDC、クロスボーダー決済の各領域で実用的なブロックチェーンソリューションを構築し、金融業界のデジタル変革を主導している。 [Hsbc ↗](#)

この深い取り組みの背景には、年間18兆ドル規模の貿易金融市場における12%のシェアを持つ同行が、処理時間を5〜10日から24時間以内へと90%短縮する必要性があった。 [Emerald Insight +2 ↗](#) HSBCのブロックチェーン戦略は、プライベート許可型ブロックチェーンを中心に、R3 Corda・Hyperledger Fabric、独自DLT技術を組み合わせ、規制準拠と運用効率の両立を図っている。 [CoinDesk +5 ↗](#) 2025年時点で、香港、シンガポール、英国、ルクセンブルクにまたがるトークン化預金サービス、香港政府向け60億香港ドルのマルチ通貨デジタル債券など、複数の画期的なプロジェクトが稼働中である。 [HSBC +4 ↗](#)

貿易金融領域での実装と商用化の実績

HSBCは貿易金融のデジタル化において最も早期から取り組みを開始し、複数のブロックチェーンプラットフォームで実際の商取引を処理してきた。2018年5月、同行はR3 Cordaブロックチェーンを使用して**世界初の商業的に実行可能な貿易金融取引**を完了した。この取引はCargill社のアルゼンチンからマレーシアへの大豆輸送に関する信用状で、HSBCが発行銀行、INGが指名銀行として参加した。 [Hsbc +6 ↗](#)

この成功を基盤に、HSBCは**Contour**（旧Voltron）プラットフォームの創設メンバーとして中心的役割を果たした。Contourは8行の創設銀行（バンコク銀行、BNPパリバ、シティ、CTBC・ING・SEB、スタンダードチャータード）による共同事業で、信用状プロセスのエンドツーエンド・デジタル化を実現した。 [Global Trade Review +2 ↗](#) HSBCは2020年12月に**最初に本番稼働した銀行**となり、処理時間を5〜10日から24時間以内へと90%削減した。 [Ledger Insights ↗](#) 2020年までに18件以上の取引を完了し、3,500万ドル以上の貨物を処理、16以上の市場で実績を上げた。 [HSBC +4 ↗](#) 特筆すべき取引には、Tata Steel社（インド）からUniversal Tubes社（UAE）への鉄鋼業界初のブロックチェーン信用状が含まれる。 [Trade Finance Global ↗](#) [Hsbc ↗](#)

ただし、Contourは技術的成功にもかかわらず、株主銀行からの十分な資金調達ができず、2023年11月30日に閉鎖された。 [Digital Finance ↗](#) [Trade Finance Global ↗](#) 資産は2024年1月に香港のフィンテック企業Xaltsに売却された。 [Global Trade Review ↗](#) [Digital Finance ↗](#) この経験は、技術的優位性だけでは商業的成功が保証されないことを示している。

eTradeConnectでは、より持続的な成功を収めている。2018年10月31日に開始されたこの香港拠点プラットフォームは、HSBC、スタンダードチャータード、ANZ・DBS・BNPパリバを含む12行のコンソーシアムで、OneConnect（Ping An子会社）がHyperledger Fabricを使用して構築した。 [HSBC +2 ↗](#) HSBCはこのプラットフォームで貿易融資承認時間を1.5日から4時間に短縮し、リアルタイムの可視性とトラッキングを実現した。 [TechRound +2 ↗](#) プラットフォームは香港金融管理局（HKMA）の支援を受け、欧州のwe.tradeや中国の粤港澳大

湾区貿易金融ブロックチェーンプラットフォームとの接続も確立されており、2025年現在も活発に運用されている。[Ledger Insights +3 ↗](#)

FX決済と社内業務の大規模デジタル化

HSBCの最も成功したブロックチェーン実装の一つが**HSBC FX Everywhere**である。2018年2月に開始されたこのプラットフォームは、HSBC内部のFX取引決済に分散型台帳技術を使用し、複数の法域にわたる同行のバランスシート間の社内FX活動の照合、ネッティング、決済を自動化している。[Ledger Insights +5 ↗](#)

その規模は圧倒的である。2019年時点で**300万件以上のFX取引、2,500億ドル相当の15万件の支払い**を処理し、[Shippingandfreightresource +3 ↗](#) 2020年末までに**1.7兆ドル以上、200万件以上の取引**を決済した。[HSBC +2 ↗](#) 2024年の最新データでは、**13通貨にわたり1,600万件の取引で8.1兆ドル**を処理している。[Ledger Insights +5 ↗](#) この実装により、HSBCはFX決済コストを25%削減し、2020年末までに社内FXバックツーバック取引の85%以上がこのプラットフォームで決済可能となった。[Cointelegraph +3 ↗](#)

技術的には、Baton Systemsの独自分散台帳技術を使用し、共有許可型台帳、自動確認・決済、取引のマッチングとネッティング、将来キャッシュフローの統合グローバルビューを提供している。[HSBC ↗](#) [FinTech Futures ↗](#) 単一の信頼できる情報源アーキテクチャにより、実行から決済までの透明性を確保し、外部決済ネットワークへの依存を減らしている。[Tadviser +5 ↗](#)

HSBCは将来的に、このプラットフォームを複数の財務センターを持つ多国籍企業クライアント向けのサービスとして提供することを検討している。[Ledger Insights +6 ↗](#) これが実現すれば、社内実装の成功を商業サービスに展開する重要な事例となる。

デジタル資産とトークン化の先駆的取り組み

HSBCは2022年から2025年にかけて、デジタル資産とトークン化の分野で目覚ましい進展を遂げている。その中核となるのが**HSBC Orion**プラットフォームで、2022年11月に発表され、2023年2月に初のデジタル債券を発行した。[Ledger Insights ↗](#) [FStech ↗](#) このプラットフォームは、Digital Asset社のDAMLとHyperledger Fabricを組み合わせた独自のDLT基盤で、デジタル債券の作成、決済、記録を行う。[Locals +2 ↗](#)

最も注目すべき成果は、2024年2月の**香港政府向けマルチ通貨デジタル債券発行**である。HKD・CNH・USD・EURの4通貨で総額60億香港ドル（約7億5,600万米ドル）相当のこの発行は、**世界最大のデジタル債券発行であり、世界初のマルチ通貨デジタル債券**となった。[HSBC +3 ↗](#) また、世界最大のデジタルグリーン債でもある。[HSBC ↗](#) [Hsbc ↗](#) Orionプラットフォームは原子的オンチェーンDvP（Delivery-versus-Payment）決済を実現し、債券決済時間を5日から2日に短縮した。[HSBC ↗](#)

その他の重要な発行実績には：

- 2023年1月：欧州投資銀行（EIB）による**史上初のポンド建てデジタル債券**（ルクセンブルク法準拠）[Euromoney ↗](#)
- 2023年6月：HSBC自社発行の**10億香港ドル（1億2,800万米ドル）のデジタルノート**（香港の企業発行体による初のデジタル債券、香港証券取引所上場）[HSBC ↗](#) [HSBC ↗](#)

- 2024年：ユーロシステムのホールセールCBDC決済の探索的作業における**初の債券決済**
- 2024年2月27日：デジタル債券を担保とした**レポ取引**の実施 [HSBC](#) [Ledger Insights](#)

2023年12月には、**HSBC Gold Token**を発表し、**世界初の銀行によるトークン化された物理的金の提供**を開始した。ロンドンの金庫に保管された物理的金の所有権をトークン化し、各トークンは0.001トロイオンスの金を表す。 [Global Finance Magazine +3](#) 2024年3月に香港の小売顧客向けに展開され、証券先物委員会（SFC）の認可を受けた**香港初のDLTベースの小売商品**となった。 [South China Morning Post](#) [CoinDesk](#) 2024年10月時点で**2万人以上の保有者**を獲得し、購入の95%がモバイル経由、90%近くが金投資初心者で、3人に1人が投資初心者である。 [PYMNTS](#) [Cryptonomist](#)

2024年には**量子セキュリティ技術の実証**も成功させた。Quantinuum社との提携により、トークン化された金に対して**ポスト量子暗号（PQC）アルゴリズム**を適用し、将来の量子コンピューティング攻撃から保護する技術を実証した。これにより、ERC-20トークンへの変換と分散台帳間の相互運用性も検証され、次世代のサイバーセキュリティ保護を先取りしている。 [Fintechmagazine](#)

中央銀行デジタル通貨への多角的参加

HSBCはグローバルで最も包括的なCBDC研究と実装に参加している金融機関の一つである。最も大規模な取り組みが**mBridge（マルチCBDCブリッジ）プロジェクト**で、2021年の開始以来、商業パートナーとして参加している。これは**国際決済銀行（BIS）イノベーションハブ**が調整し、香港金融管理局、中国人民銀行、タイ銀行、UAE中央銀行、サウジアラビア中央銀行（2024年6月参加）が参加するこれまでで最大のクロスボーダー・ホールセールCBDCパイロットである。 [Hsbc +3](#)

2022年第3四半期の6週間のパイロットフェーズでは、4法域にわたり**20の商業銀行**が参加し、**160件以上の決済とFX取引**を実施、**1億7,100万香港ドル（約2,200万米ドル）**以上の取引価値を処理した。取引は数秒で完了し、従来のコルレス銀行業務と比較して低コストと低い決済リスクを実現した。 [HSBC](#) このプロジェクトは2024年6月にMVP（Minimum Viable Product）段階に移行し、2024年10月にBISからパートナー中央銀行に引き継がれた。 [Visa](#) [Bank for International Settlements](#)

香港では、**HKMAのProject Ensemble**に積極的に参加している。2024年8月、HSBCはホールセールCBDC（wCBDC）を使用したトークン化された預金のシームレスな銀行間決済メカニズムを確立するこのサンドボックスで、**3つの概念実証ユースケース**を最初に完了した金融機関の一つとなった：

1. HSBC Orionで発行されたデジタル債券のトークン化預金による購入
2. HSBCと恒生銀行間のトークン化預金の銀行間移転
3. Ant Digital TechnologiesおよびGSBNとの電子船荷証券（eBL）のトークン化預金による決済 [hsbc](#) [BobsGuide](#)

2024年10月には、Ant Internationalとの**HKD建て初のクロスバンク・ブロックチェーン取引**を成功させた。 [The Global Economics](#) [BobsGuide](#)

中国のe-CNYでは、HSBC中国支店が2024年に**海外銀行として初めて企業向けサービス**を提供開始した。企業顧客はe-CNYデジタルウォレットをHSBC中国の銀行口座と連携させ、CBDCを直接管理できる。 ** [South China](#)

[Morning Post](#) フランス中央銀行との実験**では、2021年12月にIBMと協力し、Hyperledger FabricとR3 Cordaを統合したマルチ台帳CBDC機能を実証した。 [HSBC +2](#)

e-HKD+パイロットプログラムでは、HSBCは2024年にArbitrum・Ethereum・Linea・Polygonなど複数のブロックチェーン環境でデジタル香港ドルをテストした最初の地元銀行の一つとなった。 [Ledger Insights +2](#) 2023年9月には、香港科技大学（HKUST）で約200人の学生とスタッフに仮想e-HKDを発行する1週間のパイロットを実施し、スマートコントラクト機能を持つDLTベースの決済インフラを検証した。 [hkust +3](#)

トークン化預金サービスの展開と最新動向

2025年5月22～23日、HSBCは**香港初の銀行主導ブロックチェーンベース決済サービス**である**トークン化預金サービス（Tokenised Deposit Service）**を正式に開始した。これは、規制された金融機関による香港初のトークン化預金サービスであり、HKMAの分散型台帳技術監督インキュベーターの下での初のライブパイロットである。 [The Global Economics +3](#)

このサービスは、従来の銀行預金をブロックチェーン上のデジタルトークンに変換し、企業ウォレット間で**24時間365日リアルタイムのHKDおよびUSD決済**を可能にする。原子的決済機能とプログラマビリティを備え、従来の銀行業務よりも低コストで高速な決済を実現する。 [South China Morning Post +2](#) 初のクライアントであるAnt Internationalは、そのWhale財務管理プラットフォームを使用して即座の資金移動を完了した。 [The Global Economics](#) [Ainvest](#)

2025年10月10日、HSBCはこのサービスを**シンガポールに拡大**し、初のクロスボーダー利用を実現した。Ant Internationalは、HSBCシンガポールの企業ウォレット間で初のリアルタイムSGDおよびUSDデジタルトークン決済を完了した。 [Blockhead](#) 現在、香港、シンガポール、英国、ルクセンブルクでHKD・USD・GBP・EURに対応しており、2025年後半にアジアおよび欧州の主要市場にさらに拡大予定である。 [Blockhead](#)

2025年9月9日には、HSBCが**Canton Foundation**のメンバーとして参加したことが発表された。Canton Networkは、**3.6兆ドル以上のトークン化された資産**を持つプライバシー重視の許可型ブロックチェーンで、「Global Synchronizer」機能により、プライバシーを維持しながらソブリンブロックチェーン間での原子的取引を可能にする。ゴールドマン・サックス、BNPパリバ、香港FMIサービス、ムーディーズ・レーティングスなどが参加している。 [Sync +3](#)

2025年9月には、ブロックチェーン分析企業Ellipticへの戦略的投資も発表された。これにより、Ellipticは4つのグローバル・システム上重要な銀行（G-SIB）から支援を受ける唯一のブロックチェーン分析企業となった。 [Crowdfund Insider](#) HSBCの金融犯罪対策責任者Richard MayがEllipticの取締役に就任し、デジタル資産活動の拡大に伴うブロックチェーン取引監視とコンプライアンスを強化している。 [CoinDesk](#)

技術基盤とプラットフォーム戦略

HSBCのブロックチェーン実装は、主に**プライベート許可型ブロックチェーン**に焦点を当てており、規制コンプライアンス、データプライバシー、KYC/AML管理、高いトランザクション処理能力を重視している。 [HSBC](#)

R3 Cordaが主要プラットフォームで、2015年のパートナーシップ開始以来、Digital VaultやContourなど複数のプロジェクトの基盤となっている。[Hsbc +3 ↗](#)技術的には、Notaryベースのコンセンサスメカニズム、JavaおよびKotlinベースのスマートコントラクト、ポイントツーポイント取引によるプライバシーモデルを採用している。[Boosty Labs ↗](#) 2021年3月、HSBCは**世界初のCorda EnterpriseをGoogle Cloudに展開した銀行**となり、顧客オンボーディング時間を数ヶ月から数週間に短縮した。[101 Blockchains +5 ↗](#)

Hyperledger Fabricは、we.trade、eTradeConnect、バンク・ド・フランスのCBDC実験で使用された。[International Business Times +4 ↗](#)モジュラー設計、プラグ可能なコンセンサス（PBFT、Raft）、チャネルによる選択的データ共有機能を提供する。[HSBC ↗](#) 2024～2025年のトークン化預金サービスでは**Hyperledger Besu**を採用している。[BitcoinEthereumNews.com ↗](#)[Ledger Insights ↗](#)

Baton Systemsの独自DLTは、FX Everywhereプラットフォームを支えている。独自のBaton Coreアーキテクチャは、スマートコントラクトによる分散ワークフロー、Payment-versus-Payment（PvP）決済、レガシーシステムとの直接統合を実現している。[Ledger Insights ↗](#)[Baton Systems ↗](#)

HSBC Orionは、同行の独自トークン化プラットフォームで、プライベートDLTと原子的オンチェーンDvP決済を備え、プライベートおよびパブリックブロックチェーン接続の両方に対応するアーキテクチャパターンを持つ。香港ではHKMAの中央マネーマーケットユニット（CMU）で運用され、ルクセンブルクではルクセンブルクDLT制度に準拠した2層アカウント構造を採用している。[HSBC +3 ↗](#)

コンソーシアムと業界連携の成果と課題

HSBCは2020年から2025年にかけて、複数の主要ブロックチェーンコンソーシアムで中心的役割を果たしてきた。**R3コンソーシアム**では、2017年5月に1億700万ドルのシリーズA資金調達ラウンドでトップティア投資家となり、理事会席と統治責任を獲得した。[CNBC ↗](#)100以上の金融機関が参加するこのコンソーシアムで、HSBCはCordaテクノロジーを複数のアプリケーションで広範に使用している。

コンソーシアム参加の現実には複雑である。**Contour**（旧Voltron）は、技術的に成功したにもかかわらず、2023年11月30日に閉鎖された。創設メンバーの8行は、LC処理時間を90%削減し、18件以上の取引で3,500万ドル以上の貨物を処理する実績を上げたが、株主銀行からの十分な資金調達が得られなかった。**** [Global Trade Review ↗](#)**
[Digital Finance ↗](#) we.trade**も同様の運命をたどり、2021～2022年に破綻手続きに入った。12の株主銀行のジョイントベンチャーとして2018年に設立されたが、2020年に400万ドルの収益に対して800万ドル以上の損失を計上し、12行のうち2行しか完全にサービスを展開しなかった。[Global Trade Review +3 ↗](#)

一方、**eTradeConnect**は成功を続けている。12行のコンソーシアムで、香港金融管理局の支援を受け、中国の粤港澳大湾区貿易金融ブロックチェーンプラットフォーム、Global Shipping Business Network（GSBN）との接続を確立している。[HSBC ↗](#) 24時間365日の貿易金融申請処理を可能にし、貿易融資承認時間を大幅に短縮している。[TechRound +3 ↗](#)

これらの経験から、HSBCの戦略は**コンソーシアム重視（2017～2020年）**から、より焦点を絞った**独自ソリューションと戦略的パートナーシップ（2020～2025年）**へと進化した。特に、Ant Internationalとの戦略的パートナーシップが重要である。2020年から継続するこの協力関係は、2024～2025年に大きく発展し、2024年10月にHKMAのProject Ensembleの下でHKD建てクロスバンク・ブロックチェーンテスト取引を完了、2025年5月に香

港初のブロックチェーンベース決済サービスを開始、2025年9月に香港とシンガポール間の初のUSDクロスボーダー・デジタルトークン取引を実施、2025年10月にトークン化預金サービスをシンガポールに拡大した。 [The Global Economics +2](#)

学術研究とイノベーション・ラボの活動

HSBCのブロックチェーン研究アプローチは、伝統的な学術出版よりもイノベーション・ラボと大学パートナーシップを通じた応用研究を重視している。査読付き学術論文の直接的な出版は限定的だが、実務的な実装経験と大学との協力は広範である。

香港科技大学（HKUST）との提携は最も重要なパートナーシップの一つである。2022年10月14日に発表されたこの提携には、HSBCから1,000万香港ドルの資金提供が含まれ、AI、量子コンピューティング、CBDCの研究に焦点を当てている。 [Hong Kong University of Science and Technology](#) 最も注目すべき成果は、2023年9月16～22日の仮想e-HKDパイロットである。この1週間の小売CBDCパイロットは、HKUSTキャンパスで約200人の学生と教職員が参加し、各参加者に100仮想e-HKDトークンが配布され、5つのキャンパス内店舗（カフェ、食堂）で使用された。 [Hyipadviser](#) DLTベースのプラットフォームはスマートコントラクト機能を備え、ユーザーエクスペリエンス研究が共同で実施され、結果は2023年第4四半期に公表された。 [hkust](#) [HSBC](#)

応用科学技術研究院（ASTRI）との協力は2016年10月/11月に遡り、**HSBC-ASTRI研究開発イノベーション・ラボ（RDIラボ）**が香港サイエンスパークのASTRI施設に設立された。ブロックチェーン関連では、不動産評価、貿易金融アプリケーション、住宅ローン申請の概念実証などに取り組んできた。 [Fintechnews](#) ASTRIは2016年のHKMAの分散台帳技術白書作成にも貢献し、5行とともにブロックチェーンの貿易への応用を探る3つの概念実証を実施した。 [astri](#) [Lexology](#)

イノベーション・ラボネットワークは、香港、パリ、シンガポールに展開されている。パリのイノベーション・ラボ（2017年設立）は、貿易金融とファクタリングのデジタル化に焦点を当て、Voltronプラットフォームのパイロット、we.Tradeプラットフォームの開発、オープンバンキングAPIとフィンテックパートナーとの統合を行った。2019年までに12以上の概念実証が進行中で、総予算は2億5,000万ドルが割り当てられた。 **[RelationclientMag](#) [CompareurBanque](#) シンガポールのイノベーション・ラボ**（2015年設立）は、企業銀行業務、現金管理、流動性、貿易とサプライチェーンに焦点を当て、2023年には不動産開発業者向け初 [Hsbc](#) [Blockhead](#) のブロックチェーンベース・デジタル決済プラットフォームをパイロットし、2025年10月にトークン化預金サービスを展開した。

学術出版に関しては、限定的ながらも存在する。最も重要なのは、Arvind SahayとTara Tiwariによる**「HSBC: Facilitating Trade Finance Through Blockchain」**というケーススタディで、2023年にEmerald Insight（IIM Ahmedabad）から出版された。このケーススタディは、HSBCのVoltron（後のContour）を使用した貿易金融パイロットの実施、伝統的プロセスのブロックチェーンへの移植における課題、コンソ [Emerald Insight](#) ーシアム形成について分析している。 [Emerald Insight +3](#) ただし、HSBC研究者が直接執筆した査読付き学術論文は、2020～2025年期間において主要な学術データベースでは確認されなかった。

特筆すべき人材として、Henrique Centeiroが挙げられる。彼は2019～2021年にHSBCのブロックチェーン・シニアプロジェクトマネージャーを務めた後、2021～2024年に香港大学ビジネススクールの講師となり、ブロックチェ

ーン、NFT、メタバース、フィンテックのコースを担当した。[HKU SPACE](#) 著書「Unblockchain: A Brain-Friendly Guide for Blockchain」（2021年）など教育的貢献も行っている。

特許戦略と知的財産の位置づけ

HSBCの特許戦略は、競合他社（Bank of America: 46件のブロックチェーン特許、IBM: 71 [GreyB](#) 件）と比較して、**積極的なブロックチェーン特許出願よりも実践的実装に重点**を置いている点で特徴的である。グローバルで148件の特許（49件が付与済み、41%以上が有効）を保有しているが、ブロックチェーン関連の特許は限定的である。

2022年12月15日に、HSBCは**暗号関連サービスに関する商標出願**を米国特許商標庁（USPTO）に提出した（出願シリーズ：97718803、97718583）。これは、仮想通貨交換・送金、NFT支援デジタルメディア、仮想クレジットカード処理をカバーしている。

また、HSBCは**ブロックチェーン実装からグローバル決済ネットワークへのアクセスを可能にする特許DLT技術**を保有しており、クライアントがブロックチェーン実装からグローバル決済ネットワークにアクセスできるようにする技術である。

2023年には、シンガポールで不動産開発業者向けの**初のブロックチェーンベース・デジタル決済プラットフォームのパイロット**を実施し、**HSBC特許のブロックチェーン技術**を使用した。これにより、サプライヤーや業者への簡素化された自動支払いが可能になり、スマートコントラクトによる条件付き支払いとオフチェーン銀行レールの統合を実現した。

HSBCのアプローチは、知的財産ポートフォリオの構築よりも実用的実装を優先し、単独開発よりもパートナーシップベースのアプローチを取っている点が明確である。R3・IBM・Google Cloud・Baton Systemsなどとの戦略的協力により、独自技術の開発負担を軽減しながら、迅速な市場投入と規制準拠を実現している。

今後の展開計画と戦略的方向性

HSBCの将来展望は、既存プラットフォームの拡大、地理的展開、次世代デジタル金融のための相互運用可能なインフラ構築に焦点を当てている。デジタル資産市場は今後15年間で**約16兆ドルに成長**すると予測され、金融市場参加者の約40%が既に何らかのDLTまたはデジタル資産を使用している。

2025年の優先事項は明確である。トークン化預金サービスをアジアと欧州の複数市場に拡大（2025年後半）、HSBC Orionプラットフォームでのデジタル債券発行の継続拡大、金以外の多様な資産クラスのトークン化開発、デジタル資産カストディ機能の強化、CBDCパイロット参加とインフラ開発の継続である。マレーシア、タイ、インドネシアへの拡大も、規制枠組みの成熟に伴い計画されている。

2025～2027年の中期展望では、主要市場全体でのトークン化インフラの完全統合、より広範なデジタル送金・決済インフラの開発、デジタル通貨決済とトークン化拡大のユースケース、クロスボーダー財務管理ソリューションの強化、新興CBDCシステムとステーブルコインレールとの相互運用性が含まれる。

2027～2030年の長期ビジョンは野心的である。グローバル貿易金融の30%を獲得する包括的なブロックチェーンベース貿易金融プラットフォーム、AIとブロックチェーンの全製品ラインへの完全統合、量子セキュアで完全にデジタル化されたグローバルバンキングプラットフォームへの移行、世界経済フォーラムが2027年までに24兆ドルと予測するトークン化資産市場でのリーダーシップを目指している。

主要幹部の戦略的発言は、この方向性を裏付けている。John O'Neill（グローバルヘッド、デジタル資産戦略）は、「デジタル資産市場における流動性を促進するには、強力な接続性と市場アクセスを備えたエコシステムが必要」と述べ、Canton Foundationへの参加の意義を強調した。Lewis Sun（グローバルヘッド、国内・新興決済）は、「規制された金融機関によって支援されるトークン化預金は、企業の決済と現金管理を改善するための安全で完全に準拠したアプローチを提供できる」と述べている。

評価と展望

HSBCのブロックチェーン取り組みは、2020年から2025年にかけて、概念実証段階から大規模商用実装へと進化した。**8.1兆ドルのFX取引処理、135億ドルの資産デジタル化、世界最大のデジタル債券発行、2万人以上の金トークン保有者、香港初のトークン化預金サービス**など、定量的成果は印象的である。

成功の鍵は、プライベート許可型ブロックチェーンへの焦点、実用的実装の優先、戦略的パートナーシップ、規制当局との緊密な協力である。R3 Corda・Hyperledger Fabric、独自DLT技術の選択的使用により、規制コンプライアンスと運用効率を両立させている。Google Cloudへの移行、Baton Systemsとの提携、Ant Internationalとの協力など、技術パートナーシップも成功に貢献している。

一方、課題も明らかである。ContourとWe.tradeの閉鎖は、技術的優位性だけでは商業的成功が保証されないことを示した。コンソーシアム参加から独自ソリューションへの戦略シフトは、この経験を反映している。学術出版の限定性も、実践重視のアプローチの裏返しである。

地域的には、香港を中心としたアジア太平洋地域での展開が最も進んでおり、シンガポール、中国、英国、ルクセンブルクへと拡大している。HKMAのProject Ensemble、中国のe-CNY、複数のCBDCプロジェクトへの参加により、次世代金融インフラの形成において重要な役割を果たしている。

2025年のCanton Network参加、Elliptic投資、トークン化預金サービスのシンガポール展開は、加速する勢いを示している。量子セキュリティ技術の実証、複数のブロックチェーン環境でのe-HKDテスト、原子的決済機能を備えた24時間365日の運用など、技術的イノベーションも継続している。

HSBCは、伝統的銀行の安定性とブロックチェーンの効率性を橋渡しし、規制準拠のデジタル資産ソリューションの信頼できるパートナーとして、また次世代金融市場のインフラプロバイダーとして自らを位置づけている。トークン化市場が24～30兆ドルに達すると予測される2027～2030年に向けて、HSBCの先行者優位と包括的なプラットフォーム開発は、デジタル変革をリードする金融機関としての地位を強化している。